



鈴鹿の風

2007. 10

創刊号

「独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院」ニュース

<病院理念>

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。



「鈴鹿入道ヶ岳」 撮影者：専門職 中川 憲一

Contents

「鈴鹿の風」発刊と病棟改築のご挨拶 1-2
医局通信 ～神経内科

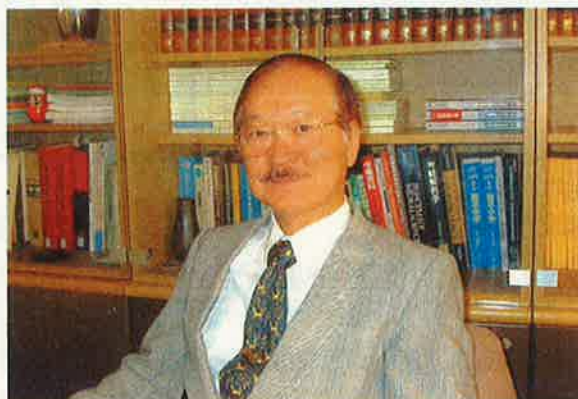
看護だより 鈴鹿病院「生き生き健康講座」の試み 3-4
トピックス 放射線科の紹介

外来診察担当表／交通案内／編集後記 5

『鈴鹿の風』発刊と病棟改築のご挨拶

国立病院機構 鈴鹿病院長 小長谷 正明

国立病院機構鈴鹿病院は、筋ジストロフィーや重症心身障害児(者)、ALSやパーキンソン病をはじめとする神経難病などの、脳や脊髄、筋肉等の病気の方たちの医療を行っています。また、同時に周辺地域の皆様の健康にも奉仕する、開かれた病院でもあります。このたび、病院の活動や、私たち職員の専門性や心意気を伝える広報誌『鈴鹿の風』を発刊することになりました。どうか、宜しくご愛読下さるよう、に御願い申し上げます。



さて、鈴鹿病院は難病や障害者医療の面では既に40年近い実績があり、以前は延命が困難であった呼吸筋麻痺の方でも、現在では人工呼吸器療法を行いながら、かつ電動車イスや各種のIT技術を使って、質の高い医療のもとに患者さん本位の療養生活を送っていただけるように、職員一同努めています。そのような内容に比べて、病院の建物が古いのが難点でありました。

本年平成19年4月15日の重心、筋ジスそれぞれの家族の会の総会があり、私も出席して昼食をとっている最中に大きな音とともに激しい揺れがまりました。入院中の患者さんの安否や建物損壊が気になり、直ちに病院中を巡回しましたが、幸い、軽度の被害ですみ、胸をなで下ろしました。亀山市を震源とする震度5強の地震で、三重県が南海地震警戒地区でもあることから、病棟建替え作業の早急な開始を痛感しました。幸いにも、6月6日に工事作業スタートが決まりましたので、発刊の挨拶とともに、晴れて新しい病棟についてご披露したいと思います。

現在、鈴鹿病院には7個の病棟がありますが、平成11年に改築が完成した六病棟以外は昭和40年代にできたものであり、老朽化していることは言うまでもありません。また、医療や福祉内容の進歩に従い、さまざまな医療機器、電動車イス、電子機器等のためのスペースが必要となってきています。そして、なによりも明るくて快適な療養空間はよいものです。

近代的な病棟は、患者さんやご家族、それに病院職員一同の長年の悲願でしたが、平成16年の独立行政法人化に伴い、経営状況のよい病院の整備は積極的にできることになり、当院もすぐに建替え構想をプランしました。

具体的には重心と筋ジスの全ての病棟を一つの建物にします。一個病棟は40床ですが、これが60床となります。したがって重心も筋ジスも40床×3個病棟が、60床×2個病棟となり、いずれも120の定床数は変わりません。新病棟は一部3階の鉄筋コンクリート建築で、1階が筋ジス、2階が重心、3階がリハビリ関係となり、建物の外寸は120×25mといった、細長くて大きなものとなります。

建物の中央を入り口とし、エレベーターホールを抜けると左右に病棟が広がります。エレベーターは3基です。2階の重心のフロアでは、左右の病棟入り口にガラス戸を設けます。各階には幅3mの廊下2本を通し、窓側に病室、廊下に挟まれた部分をサービス(ナース)ステーションや資材庫、トイレ、階段室などを配置しました。浴室は各階の中央におき、両翼の病棟の共有設備としました。筋ジス病棟ではシャワーバスとエレベートバス各1台、重心病棟ではエレベートバスを2台設置予定です。浴室の両脇はそれぞれの病棟の食堂兼用のデイコーナーであり、重心病棟ではクッション・フロアで床暖房とし、この部分の窓ガラスは強化ガラスにフィルムを貼り、不測の行動や転倒時の耐衝撃性を強めます。

病室は基本的には4人部屋で6×6m、一人当たり9㎡のスペースとしました。また、重症者や感染症の院内感染を予防するために個室や二人室を造り、酸素などの医療用配管も密にしています。

今回の病棟建築では、阪神淡路大震災級の震度6強に耐える、耐震性能の基準で設計されています。火災時の配慮としては、各室および廊下は約4mおきにスプリンクラーを、防火区画は各階段室に設置し、また2階の重心のフロアでは、中央部よりも防火区画を設けました。また、現在の医療は電気によっているともいえますので、電源は4重にするなど、危機対応も考慮しています。

これだけ大きな建物ですから、一気に建築するだけの面積がありません。まず、炊事場等のサービス棟の新築、および旧六病棟を改修して七病棟の患者さんを臨時に移した後、現在のサービス棟や七病棟などを解体して新病棟の敷地を造ります。それから本体の工事となりますので、完成は来年度中と予想しています。

今後の建替え工事の作業は、職員一同きちんと行うように心がけますので、何かとご不便をかけることもあるとは思いますが、宜しくお願いいたします。



医局短信～神経内科

神経内科部長 久留 聡

神経内科は物忘れや頭痛、手足のシビレや麻痺、震えなど、脳や脊髄、末梢神経、筋肉の障害が原因で起こる病気の診療を行います。うつ病やノイローゼなどの心の病気を診る精神科ではありません。認知症、脳卒中、パーキンソン病、多発神経炎、筋ジストロフィーなどさまざまな病気が対象になります。当院は神経内科の専門医が診療しており、日本神経学会の教育指定病院です。

筋ジストロフィーをはじめ、筋肉の病気については世界でも有数の療養施設であり、人工呼吸療法にも積極的に取り組んでおり、高い評価を受けています。また筋萎縮性側索硬化症や脊髄小脳変性症、クロイツフェルト・ヤコブ病などの神経難病の領域でも実績があります。特に治療の難しい慢性疾患の入院が多いため、内科やリハビリテーション科と連携をしながら患者様一人一人の生活の質の向上を目指して診療を行っています。

看護課だより

鈴鹿病院「生き生き健康講座」の試み

総看護師長 小川 恵子

鈴鹿病院は昭和18年に陸軍病院として創設されてから、60数年にわたり国民の健康を守るという役割を果たしてきました。現在は主に筋ジストロフィー、重症心身障害児(者)、神経難病の方の医療を行っています。しかし、その診療の特殊性からか地域の皆様からはあまり知られていない現状がありました。

そこで「もっと鈴鹿病院のことを知ってもらいたい」「当院に入院している患者様のことも知ってもらって地域の皆様と交流を図りたい」「当院も地域の方々が受診できることをわかってもらいたい」等々…多くの気持ちをこめて、病院のある加佐登地区の方々を対象とした健康講座を開くこととしました。今回はそのことについてお知らせしたいと思います。



平成19年6月27日(水曜日)午後1時30分から3時まで、第1回の「生き生き健康講座」を開催しました。内容は健康チェックと健康相談、健康に暮らすための豆知識の二本立てです。健康チェックは当院が整形外科を標榜していることから骨密度をメインに、肥満度や血圧測定を行いました。健康状態のデータをもとに看護師が種々の相談に応じました。健康に暮らすための豆知識は当院の小長谷病院長が「脳とうまくつきあってハッピーになる」

と題して認知症の予防の為に食生活等を中心に具体的に話しました。ワインやチョコレートは脳を刺激してハッピーになる成分があることなども教えてもらいました。途中「夕食の献立を覚えていらっしゃいますか」と質問されてドキッとした方もみえたようでしたが、「夕食のメニューは忘れても食べたということ覚えていれば大丈夫ですよ」と言われ、みんなでほっとした一幕もありました。もう一つは理学療法主任が「肩こりと腰痛との付き合いかた」と題してお話ししました。主にリラックスとストレッチについて、実際に体を動かしていただきながら説明を行いました。

当日は暑い日で、何人の方に来て頂けるだろうか心配しましたが、58名の参加があり、資料や椅子を追加するなどうれしい誤算もありました。参加者からは「とてもわかりやすくてよかった」「こんな機会がないのでありがたい」「友人の誘いで参加し、近くで勉強できてよかった」等のお言葉をいただきました。また、この機会に、入院患者様の作品も多くの方に見ただけのもうれしいことの一つです。

舞台裏方をお話ししますと、多くの職員や患者様、加佐登町内会の皆様みんなで作り上げた健康講座でした。加佐登町内会の方からは準備段階で「こんな催しをやって欲しかったんだ」と力強い言葉をいただきました。患者様や療育指導室は作品を展示してくれました。



事務は広報、会場準備…等、椅子や資料が足りなくなっても、連携で開始時間には何事もなかったかのようにスムーズに開始できました。売店のない当院ですので水分補給は栄養室や事務が準備してくれました。ただ準備しておくのではなく、職員がコップに注いで「どうぞ」とお渡しすることによって、『鈴鹿病院らしさ』をお伝えできたのかなと思っています。

これを機会に地域の皆様との交流を大切にしながら、施設としてできることを実践していきたいと思えます。



トピックス

放射線科のご紹介

診療放射線技師 波田 佳典

当院の放射線科について紹介致します。当科は2名の診療放射線技師が勤務しており、エックス線一般撮影、エックス線TV透視、エックス線CT検査などを行っております。

一般撮影は胸部、腹部や骨の撮影などの従来からある撮影で、俗にレントゲン撮影といわれるものです。当院の一般撮影はコンピューテッド・ラジオグラフィシステム(CR)によりデジタル化され画像処理等を行うことにより質の高い画像を提供しております。エックス線TV透視はバリウムを飲んで行う胃の検査などがあります。主に造影剤を使って患者様の臓器・組織を透視し、医師がTVモニターで観察あるいは治療をしたり、撮影したフィルムでの診断をします。当院では主に胃瘻、腸瘻造影や嚥下機能を見る造影などを行っております。また各種チューブの位置確認などにも利用したり、骨折や脱臼の整復時に利用をしたりしております。エックス線CT検査は頭部や胸腹部などの体幹部、全身の筋肉や骨の断層撮影を行う検査です。当院はマルチスライスCTを導入しており広範囲の断層画像を短時間で撮影することが可能となり患者様の負担を軽減することができました。付属の解析ソフトの充実により血管や骨、気管などの3D表示(立体表示)や断層面における脂肪の割合計算など診療に役立つデータの提供ができるようになりました。またCT検査時での安全性については一昨年、厚生労働省からの情報で心臓ペースメーカーの機種によってはCT検査時のエックス線で誤動作を起こすものがあることが判りました。ペースメーカー植え込み術をされた方でCT検査を受けられる事(当院に限らず)がありましたら、必ず担当の技師にお申し出下さいませようお願いいたします。

このように放射線科では患者様の安全と質の高い画像診断ができるよう日々努力しております。検査等について何かご不明な点がございましたら、お気軽にスタッフまで声を掛けて下さい。



外来診療担当表 (2007年9月1日 現在)

		月	火	水	木	金
神 経 内 科	午 前	小 長 谷	酒 井	田 村	小 長 谷	久 留
	午 後				(予 約)	
内 科	午 前	柴 田	木 村	安 間	安 間	野 口
	午 後					
小 児 科	午 後	(予 約)	(予 約)	(予 約)	(予 約)	(予 約)
整 形 外 科	午 前		田 中			田 中
	午 後		(装具外来)			
リハビリテーション科	午 前					田 中
	午 後					
歯 科	午 前	清 水		松 村	小 林	

- ◆ 歯科は身体障害者の方に限ります。
- ◆ 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- ◆ 小児外来は担当医にご相談のうえ、ご予約下さい。
- ◆ 土曜日、日曜日、祝祭日は休診とします。



交通案内

- ◆ JR「加佐登」駅より徒歩8分
- ◆ 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- ◆ 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- ◆ 三重交通バス(荒神山口行/椿大神社行)
加佐登神社前下車
- ◆ 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線26加佐登神社下車



◆ 発 行

平成19年10月
独立行政法人 国立病院機構 鈴鹿病院
 〒513-8501
 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号
 Tel. 059-378-1321(代)
 Fax. 059-379-7083
<http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

編集後記

梅雨が明けようとしていた頃、病院広報誌の創刊が決まりました。あまり実感がわかないまま、とりわけ暑い夏が瞬く間に過ぎてしまいました。『鈴鹿の風』が完成した今、ようやく「広報誌の創刊に関わったのだ」という幸運を感じています。誌名公募・寄稿など、ご協力いただいた皆様に心から感謝します。(安間文彦)